

令和 5 年度



# 幼稚園だより 3月号

文京区立小日向台町幼稚園

## 次世代へのエール

園長 小岩井 聡

温かい冬とはいえ、春に向けて三寒四温の営みを感じます。

園庭の梅は早々に咲き誇り、隣の桜のつぼみも膨らみ始めました。たんぽぽ組の前にあるクロッカスも咲き始めました。年中組のチューリップはじっと我慢をしているようです。園庭も春の準備が着々と整ってきたように感じます。

幼稚園では、この時期になると、いろいろな場面で年長組から年中組へのバトンタッチが行われていきます。幼稚園の文化や伝統が次の世代に受け継がれていきます。

先日の誕生会では、今まで年長組が受け持ってきた「司会」という大役を、年中組が行いました。年長児と一緒に、グループに分かれて受け持った「司会」の言葉を、年長児、年中児と一緒に言います。いつもは見ている「司会」を自分たちも行うのですから、さぞ緊張もあったことでしょう。でも、先生のリードをもらいつつ、最後までやり遂げることができました。

そのほかにも、これまで年長児が、頑張ってきた動物当番の引継ぎもしています。大切にしてきたウサギの「みみちゃん」のお世話の仕方を、年中組が自分たちでできるように教えていきます。

年長児にとって、何かを教えるということは、難しいことです。自分でやってみせると、全部やってしまうことになりかねないからです。一つ一つ言葉で伝え、やり方を見せて、なおかつ、年中組ができるようにサポートしてあげる。それでも、次の年長組となる後輩に幼稚園を託す大切なこととして、一生懸命頑張っています。

これらの子どもたちの姿を通して感じたのは、思いやり。相手を思いやり、見守ってあげる姿、手をつないで危なくないようにサポートしてあげる姿、次は自分でできるように、教えてあげる姿。すべて、根底には思いやりの気持ちがあるのです。その気持ちは、幼稚園で培うことはできても、教え込むことはできません。遊びや友達との関わりを通じて、自分たちの経験したことを蓄積していつてそういう姿になっているのです。

受け止める側の年中組も、自分たちががんばることで、年長組が頑張ってきたことをつないでいこうと取り組みます。それも教えてくれる相手への思いやりの一つの形だと思います。

幼児教育で大切な「体験を通じて、心を育てる」ことを、しっかりと、子どもたちが行動で示してくれているのです。修了・進級まで残り少ない時間を、しっかりと充実させていけるよう年度の締めくくりをしていきたいと思います。

最後になりますが、今年度も、保護者の皆様、地域の皆様方には本園の教育活動に多大なるご理解とご協力いただきましたこと、御礼申し上げます。ありがとうございました。